

1、目標

- ・新園舎建設資金の返済、運営面の収支を丁寧に把握、安定した経営を努力。一人ひとり子ども・職員の子・その人らしさ、思いを尊重。“共感・共有とは…”の意味あいの模索。各年齢についての学び。“楽しい”と思える保育。“間”を大切にする保育。環境設定の工夫。昔ながらの遊び。保護者との信頼関係づくり。新しいメニューを取り入れる。園全体の感染予防。加配としての役割の模索。安全への配慮。小さな工夫とチャレンジ。子育てと仕事の両立等が挙げられていた。

2、上半期自己評価

建設資金返済、運営費を圧迫、人件費に影響の出ない対策を思案。相手を尊重、自分の思いを伝える事の難しさ。心のもやもや、話し合いの大切さを感じる。職員間の情報共有。保護者のアンケートへの返信が遅くなり反省。代替でできることが多い中、伝え合いを大事にしてこられた。切り替えの難しい子に対しての保育、関わりが分からなくなることがあった。集団が作られていく中での個々への声かけに難しさを感じる。子どもの願いに対しての関わりや課題に対しての手立ての模索等。

今後の課題・目標

- ・上半期の目標の継続（複数）
 - ・“一步前進”の子どもの活動を考える。
 - ・否定的な言い方ではなく保育者間で悩みを共有し、手立てや関わりの方角性を考える。
 - ・子どもの内側にある願いをもっと保育の中に繋げ、その願いの中から発達や価値を見出していく。
- 保護者年の遊びを繋げていく

4、下半期自己評価

- ・安定した経営を務めてきたが、物価の高騰など予想以上のことも起き、難しい一年だった。
- ・“コロナ禍でも一步前進”の活動に心がけてきたが、園内での感染拡大が著しい一年だった。保護者アンケートで、“昔のつくしの方が楽しかった”と言われると全くその通りですと反省しかない。
- ・コロナ禍、一步また一步進んできたが予想以上の広がりに対応に悩むこともあった。入れ替え制ではあったが、保護者参加の行事ができなかった。
- ・“共感・共有・多様性”について、様々な人と関わる中で考える機会があった。その言葉に拒否反応が出ることもあったが、相手の意見を冷静に聞き、ことばの裏にある要求を見つけられると自分自身がすっきりし、相手と向き合うことが大切と感じる。
- ・自分の中の多角的な部分を鍛える。
- ・子どものこころに寄り添い、子どもへの言葉かけを大切にしてきた。
- ・自分の保育を振り返り、子どもの姿を見て「これはあっているな」「これは違うな」と客観的に感

じられるようになってきた。子どもとの関わりが主観的にならないようにしていく事が大切だと感じている。

- ・子どもの成長とともに「やりたい事、やってみたい事」が増え事故が起きてしまい、嘔みつき、ひっかきも増えてしまった。保護者には納得いかないことも多く、説明不足なこともあった。
- ・担任間の連携は、周りの助けを借りながらなんとか考えてやってこられた。もっと何かできたはずと心残りや反省がある。
- ・日々の生活や楽しい遊びを通して信頼関係を築き、周囲の先生の子どもたちへのかかわり方やアドバイスをもらう中で、個々に合った関わり方を少しずつ見つけることができた。
- ・ケンカや個々で困っている時、視野が狭くなり連携不足もあったため今後の保育で意識していきたい。
- ・ごっこ、みだてつもり遊びを楽しんでくる中で、大人がいない場面でも子どもの中に定着していて嬉しい。
- ・“ちいなか”や参考書をみてその都度学んだ。職員と連携とれるようたくさん話をし、コミュニケーションとってきた。「ありがとう」を伝える事、相手の思いを聞くことを大切にしながら保育して来られた。
- ・職員同士での保育の共有、伝え合い、ざっくばらんに話をしてきた。できないこと、うまくいかないことも次に活かせるよう意識していく。
- ・子どもが主体的に遊びを学べるようなおもちゃの収納に課題を感じた。
- ・「まってるよ」の声かけを意識する中で、こどもたちからも「まってるね」と声かける姿がうれしく、子ども同士でもこのような関係を大切にしたい。
- ・保護者に給食室から見える子どもたちの様子をもっと発信するとよかった。離乳食懇談やお便り等で具体的に伝えられるようにしていきたい。
- ・事故防止のガイドラインの確認はできていない。新型コロナウイルスが園内に流行する前にマニュアル作成できていたので対応がスムーズだった。
- ・業務への慣れ～保育者の確認ミスによる事故（サークル車からの転落）を起こしてしまった。連携と確認、業務は今一度気を引き締めて行っていく。
- ・今までの作業ややり方に対して、租それが本当にベストなのか？と考えることができた。
- ・否定的な言い方ではなく。でも事実やどうするとよいのか手立てや関わり方向性を考えていけるような話ができるように努力したい。

5、その他

- ・“人の意見を受け入れることを潔しとする”この言葉の重みと大切さを自分の課題としていきたい。
- ・保護者支援、保護者の要望等、どこまで受け入れるべきか、園としての思い等、伝えていく事の難しさを感じる。
- ・保育者側が「当たり前」「普通は～する」という考えが保護者側とは違う。「～した方がいいよ」ではなく、「～していると、～に遅れがでますよ」（おしゃぶり）といった方が、分かりやすく理解してくれることもあった。
- ・子育てしながら仕事をする事の難しさや身体の大変さは日々感じる。今は早朝、最終勤務は免

除されているが、今後やると考えるとできるか正直不安。自分のキャパに合った仕事は…と日々考える。

- これでいいのかと自分の保育に悩むし、関わりが全て正しいと思えないこともある。より良い保育について仲間と自分で考えていくということが一歩ずつ前進しているということなのかと思う。
- 子どもを集団で預かるということの責任の重さと、日々の活動行事を通して専門的に発達を支える保育士という仕事のすごさを感じる。もっと社会的に評価されていていい仕事だと感じる。
- 加配という立ち位置に戸惑うことがあったが、皆で支えていくということが哀切なのだと感じる一年。一人でやらなきゃ、何とかしなくちゃと思いがちな自分の性格とも向き合った一年。色々感じ、考えさせられ、少し成長できたかなと思います。
- 子どもたちから笑顔とパワーを毎日もらい、元気でいられた。
- 一年経過してもまだ知らない業務がたくさんある。自分から声をかけ教えてもらいながらできることを増やしていきたい。
- いつもの子の味、個々でみんなで食べた味、懐かしい味、安心する味、嬉しかった味、楽しかった味を記憶の中に少しでもあればうれしく思う。
- 長い休みをいただき、自分自身と向き合う中で、今の自分に何が大事か、どうしたら働き続けられるか新しい選択肢を考えられるようになった。落ち着いて毎日が過ごせていることが嬉しい。周り比べると情けなく思うこともあるが、自分はこれでいいと思えるように自信をもって働き続けていきたい。